



道しるべ

道徳通信

上尾市立太平中学校
道徳通信 第6号
令和5年11月16日(木)
発行者 校長 井浦 博史

新しい技術との付き合い方



1学年職員

最近では生成 AI や3D プリンタといった技術が世の中に浸透してきました。

便利である一方、手間がかかる面や様々な問題点があります。例えば生成 AI による著作権の侵害。身近な話であれば情報の信頼性です。以下は生成 AI (ChatGPT3.5) で生成した文章です。昨日の夕飯がボンカレーだったので生成 AI にボンカレーの歴史について文を出力させました。この文章にいくつ間違えがあるでしょうか？

ボンカレーは、日本のカレーブランドであり、ボンカレー株式会社によって製造・販売されています。

1967年：ボンカレーの歴史は、この年に始まります。当初は株式会社フジッコが製造・販売していました。この時期は、ボンカレーは缶詰の形態で提供されていました。

1970年代：ボンカレーは徐々に人気を集め、家庭用のレトルトパウチにも展開されました。これにより、手軽にボンカレーを楽しむことができるようになりました。

答え合わせです。1967年→1968年がボンカレーの発売年です。「株式会社フジッコが製造・販売」という事実は見つかりませんでした。「缶詰の携帯で提供」とありますが、レトルトパウチで開発されたことがボンカレーの特徴です。「家庭用のレトルトパウチにも展開」についても、初めから家庭用で販売されています

四箇所が事実と異なります。困ってしまいますね。これはあくまでも一例ですが、生成型 AI はこの言葉の後にどのような言葉が続くかを出力しているために起きる現象です。このような特性があるため、調べものをするには不向きと考えられます。情報の信頼性という面では生成型 AI について注意が必要です。実際に触れてみることで、そのうえで問題点に気づくことが大切だと改めて感じています。たくさんの魅力的なコンテンツがあふれています。中学生である皆さんには、その中でより多くのことを経験して使いこなせるようになって欲しいです。あなたが使いこなせるようになるためにはどんなことが必要でしょうか、ぜひ考えてみてください。また、情報の信頼性という問題点をどのように改善しますか？また、この一面をどのように活用していきますか？技術の活用も合わせて考えてみてください。

失敗



振り返ることの大切さ

2学年職員



「先生」という仕事をしていると、出張先の研修会や教育雑誌などから学ぶことが多々ある。その中でも「振り返ること」は特に印象に残っている。これまで学んできたことから言葉を借りれば、「振り返る」とは「過去の事についてよく考える、反省する」「改善につなげる(学びを自分で調整する)」そして「自分で考えて動く」と言える。これらのような「自分で考え、自分で調整する」力を身に付けさせることが我々の仕事であると自覚し、授業でも1時間を振り返り、学びや次への課題(努力や工夫)を生徒に記述してもらっている。

11月のある新聞記事に失敗学理事長、畑村洋太郎さんの「失敗は失敗のもと」という見出しを見た。そこには「指導者や先輩が教えなかったことまで含めた本当の意味でも知識や経験は、自分で考え、やってみることを通して、能動的に(自ら積極的に)学ばなければ身に付きません。」また「失敗を恥だと感じ、目を背けていると繰り返します。次第に自信を失っていき、今度こそはと挑戦する意欲までなくすこともあり得ます。『失敗は失敗のもと』です。失敗を通して学び取ったことだけが次の『成功のもと』になる。失敗との付き合い方が大切なのです。」とあった。

私はこの記事を読んで、「振り返ること」に通ずるものを感じた。「この失敗をどう生かすか」また失敗と言わずとも「次はどうすればさらに良くなるか」「今の自分には何が必要か」などを考え、実際に行動することが大事なのではないかと感じた。さて、今の私はどうだろう。授業にはさらにどんな工夫が必要か。先日の部活のメニューや助言は適切だっただろうか。今考え付いたこの改善策で本当に合っているか…頼れる仲間と相談してみよう。

振り返り

成功のもと

失敗

振り返り

成功のもと

失敗

振り返り

成功のもと

失敗

振り返り

成功のもと

失敗

振り返り

成功のもと

【すごい】葛飾北斎と【やばい】葛飾北斎

3学年職員

みなさん、超有名人【すごい】葛飾北斎は、ご承知の通りと思います。

日本のみならず世界にもその名が知れ渡る天才浮世絵師です。中でも富嶽三十六景や時代の風刺画が有名です。神奈川沖浪裏は美術室前にも飾ってありますね。「北斎漫画」は今の漫画本の始まりともいわれています。どれだけその絵がすごかったかという、19世紀の終わりころヨーロッパでジャポニズムが大流行し、富嶽三十六景などが大きな影響を与えました。ゴッホ、モネなどに模写されたほどです。

では、【やばい】葛飾北斎をしていますか？

これだけの有名人ですから稼ぎも半端なかったと思います。しかし、北斎は生涯貧乏暮らしです。なぜなら、お金の管理ができなかったらしく、もらった金は袋ごと大家さんに払ってしまったり、穀潰し（ごくつぶし・定職もなくぶらぶらと遊び暮らす者）の孫がいて、金をせびられてはその都度渡していたようです。そして、お金の整理ができなければ、身の回りの整理もできなかったようで、家の中が汚くなると引っ越す。多い時には月3回も引っ越したことがあるそうです。やばいですね。

浮世絵が贅品として扱われ、贅品が禁じられた江戸後期には思うように描けなくなりました。それでも北斎の浮世絵に対する情熱は冷めることなく90歳で亡くなる直前に「あと5年生きたら絶対俺は本物の絵師になれるのに……」と、悔しがったそうです。（生涯最後の作品を見てみたくありませんか）

人の一生の幸せって何でしょう。北斎は貧乏でしたが、絵が描けて幸せだったのでしょうか？それとも、あと5年生きれなかったで、不幸せだったのでしょうか？

旅することで育つ「鳥の目」

さわやか相談員

皆さんは、旅が好きですか？今年の夏休みは、息子と二人で大分県にいる友人を尋ねました。旅の目的は、大分の自然と共に暮らすゆかいな仲間達と出会うことです。

友人は、舞踊家として大分県を基盤として活躍しています。

十八年前に、千葉県から大分県に移住しました。最初は、環境に馴染めず、泣いていたそうです。しかし、舞踊家として再出発をして、彼女の努力と、たくさんのご縁に恵まれ、今が一番楽しくて幸せだと何度も話してくれました。旅の初日は、別府の地獄谷、龍巻地獄、鉄輪の温泉から十文字展望台、九重町田野を散策しました。広大な草原と山々に心が洗われました。

「旅は心の洗濯」といいますが、美しい風景を目にすると自然の美しさに心底感動します。朝から夕方にかけて、たくさんの観光地をドライブして、夜は竹田市にある、「巡りの里」という古民家でのライブに足を運びました。巡りの里は、埼玉県から移住してきたご夫婦が、畑やたくさんのお花に囲まれた自然豊かなこの場所で、ロケットストーブや土窯オープンを手作りし、日本ミツバチ達と一緒に暮しています。クーラーがない古民家でしたが、不思議と暑さを感じませんでした。その古民家で、都内から移住してきたミュージシャンが自然の大切さを伝えた歌を演奏し歌いました。歌を聴きながら、本当の豊かさは、なんだろう？と考えさせられました。

昨今、地球の温暖化や自然災害が社会問題となっています。今回の旅で、人は自然の中で生かされて、自然の循環と共にある日々を大切にすることが必要だと気づきました。

人生には二つの目が必要だといいます。

二つの目とは、「虫の目」と「鳥の目」です。

私たちは、日常的に目の前のことだけを必死になる「虫の目」で生きていますが、日常から離れて旅にでると、視野がぐっと広くなり、この地球上にはいろんな人がいて、今、自分すんでいる世界だけがすべてではないんだあという俯瞰力（ふかんりょく）が育ちます。「鳥の目」が持てるのが、旅の醍醐味だと思います。

私自身、高校時代に「生きている実感」がなく、悶々としたときに、旅先での萩・津和野の美しい風景をみて心洗われました。旅することで、人生がリセットできる。それが、旅の醍醐味だと実感しています。旅するには、よい季節となりました。小さな旅からしてみませんか？

